

**膝蓋大腿関節症の診断における画像モダリティの比較検討
：関連因子の探索と有用性評価**

1. 研究の対象

2016年7月31日～2025年3月31日に当院でSPECT-CT検査を受けられた方

2. 研究目的・方法

膝蓋大腿関節症は、中高年の方に多く見られ、特に階段の上り下りや立ち上がる時の膝の痛みの原因となります。日常生活の動作に支障をきたし、生活の質を低下させる病気です。

しかし、その診断は今も難しく、一般的なレントゲン検査では、撮影時の姿勢や個人差の影響で正確な評価が難しいことがあります。MRIでは軟骨や骨の変化を詳しく見ることができますが、膝にかかる負担や骨の活動性までは評価できません。また、画像での変化と症状が一致しないケースも少なくありません。

こうした中で注目されているのが、SPECT（スペクト）という検査です。SPECTは骨の代謝の活発さや力のかかる場所を画像として可視化できるため、膝蓋大腿関節症の早期発見や補助的な診断に役立つ可能性があります。ただし、他の検査と比べたときの正確さや役割については、まだ明確になっていない部分もあります。

本研究では、レントゲン、SPECT、MRI、CTといった複数の画像検査の結果を比較・解析し、膝蓋大腿関節症に関わる画像上の特徴や、どの検査がより正確に診断できるかを検討します。これにより、早期かつ的確な診断に貢献し、よりよい検査の選択につながることを目指しています。

研究実施期間：研究実施許可日～2027年3月31日

試料・情報の利用及び提供開始予定日：2025年5月26日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ情報から以下の項目を抽出します

- ・単純CTおよびSPECT-CT
- ・単純レントゲン画像
- ・MRI
- ・患者立脚型スコア：質問票
- ・カルテ記載：性別，年齢，BMI（Body Mass Index）指数 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先及び研究責任者：

所属：秋田大学大学院医学系研究科 整形外科学講座

住所：秋田県秋田市本道 1-1-1

職名：大学院生

電話番号：018-884-6148

氏名：石垣 佑樹（研究責任者）

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称：

国立大学法人秋田大学大学院医学系研究科

研究科長 羽瀨 友則